

卒業する今

新しい一歩を踏み出す人、
仲間を送り出す人——。
各部の方に、今の思いをききました。



中等部 Junior High School

日々を大切に

石井 大翔 中等部3年

中等部での長いようで短かった三年という月日が経とうとしています。

この中等部での生活は、日々の授業、部活動などとても充実していました。中でも、毎日行われる礼拝で聖書に触れ、様々な教を学ぶことが出来ました。また、1年生時にクリスマス礼拝の博士役、2・3年生の時には聖歌隊に選んでいただき、讃美歌に対する楽しさや言葉では表せない心の充実を得ることが出来ました。

僕が好きな聖書箇所は、マタイによる福音書7章24～27節の「家と土台」についての箇所です。岩を土台にした家は、雨が降り、川があふれ、風が吹いて襲っても倒れなかった。マタイは、基本や基礎の重要性を教えてくださいました。僕はこの聖句から、日々の学習や部活動の練習など一日一日が僕自身の基礎になると置き換え、充実した生活を送ることができたと思います。

中学3年時は、新型コロナという感染症で野球部の大会の中止、体育祭や文化祭の縮小など、今までとは違う年になってしまいましたが、無事卒業することが出来たのも、両親や先生方、その他たくさんの方々のお陰だと思い、感謝しています。次の高校というステップでも基本や基礎の重要性を忘れることなく、僕の高校での目標である、野球部で一日も早くレギュラーになれるよう頑張っていきたいと思います。



中等部祭

今、伝えたいこと

河内 由気 中等部教諭

「人には、あらゆる経験をプラスに捉え、その後の人生の糧とする力が備わっている」。これは、72期の皆と共に過ごしてきた3年間の経験から、今、私が強く思っていることです。

72期が中等部に入学してきた日のことを鮮明に覚えています。「皆小さくてコロコロしていて、ただただかわいい存在」という印象を抱きました。

私は3年間という時間の中で大きく、そして逞しく成長していく皆さんの姿に大変驚かされると同時に、これまでの人生において経験したことのない感動を覚えています。ただ、心残りがあります。それは、72期の皆が最上級生としてこの中等部を牽引する年に新型コロナウイルスが猛威を振ったという事実です。

青学講堂で初めて皆と出会ったあの日、「この子達が3年生になった時、どのような活躍を見せてくれるのだろうか」と夢を膨らませて、担任団全員でワクワクしていました。しかし、沖縄への卒業旅行は中止、運動会と中等部祭は縮小。また、休み時間に伸び伸び体を動かすこともできない。ストレスが溜まる日々だったと思います。「コロナさえなければ」という思いは心をよぎります。

ですが、皆に知ってほしいことがあります。それは、72期一人ひとりに人に夢を抱かせる力があるということです。そういう魅力を秘めているということです。ですから私は、皆さんが卒業して中等部生活を振り返る時、「コロナの影響を受けて何もできなかった」という思いを抱くのではなく、「あの経験があったからこそここまで成長することができた」と語れる人になって



中等部運動会

いると強く信じています。

「あらゆる経験を人生の糧に変える力」。皆さん一人ひとりに備わっているこの力を今こそ発揮し、72期としての誇りを胸に、この中等部を巣立ってくれることを心から願っています。